

2025年度 早稲田大学大学院教育学研究科
博士後期課程 専門職業人入学試験問題 [小論文]
【教科教育学専攻（国語科教育学・国語科内容学）】

解答上の注意

1. 解答用紙の所定欄に、研究指導名・指導教員名・受験番号・氏名を必ず記入すること。
2. 解答の際には、問題番号、設問番号を記入してから解答すること。（例「問題1 問1」）
3. 解答用紙が複数枚配付された場合、ホッチキスははずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。
4. 問題用紙は「3枚」（本ページ含む）、解答用紙は「1枚」です。必ず枚数を確認すること。

以 上

博士後期課程 入学試験問題

専門職業人入試 科目名 小論文 (国語科教育学・国語科内容学)

一 小論文

次に記す文章は萩野敦子「新たな古文教材の可能性―A定番外Vの中古・中世物語を中心に―」の一節である。文章を読み、以下の問いに答えなさい。

02

高等学校の国語教科書が〈定番外〉の王朝物語を意欲的に採録するようになったのは、『堤中納言物語』を除いては平成二五年検定版あたりからで、ごく最近の傾向である。そのねらいの中心には、既習の教材を対照させながら読むことで共通点や相違点を見出し、自分なりに物語世界を批評するスタンスを獲得することがあった。もちろん、未知の物語の存在を知ること自体に意義がないわけではないが、たとえば『夜の寝覚』や『松浦宮物語』などの全体像を「知る」こと以上に、「既習の物語と設定が似ている」「『源氏物語』の雰囲気とはずいぶん違う」などといった、対比項や比較軸を踏まえた「考察を深める」と、そのような「問いを持つ」ことが重要なのである。〈定番〉の教材である『源氏物語』や『竹取物語』『伊勢物語』には、「日本人なら知っておいてよい」という教養獲得の役割もあるかもしれないが、〈定番外〉の教材は〈定番外〉であるだけに、教養の獲得以上にコンピテンシーに関わる、あるいは深い学びにつながる、教材価値を掘り起こしうると思われる。

本稿で見えてきた〈定番外〉の王朝物語の採録は東京書籍と第一学習社の教科書が圧倒的に多く、編集委員の個性が教材選定に反映したのだと言ってしまえばそれまでである。現場の教員には、自分が知らない作品を扱うことへの不安もあるだろう。しかし、未知の作品を前に教員と生徒が「教える」「教わる」関係を越えて、発想力や想像力を読み取る文学的体験を共有するという姿勢で〈定番外〉教材に臨むことができれば、解釈と表現に関わる資質・能力を生徒に育むことに直結するであろう。

← 個別の知識・技能の獲得以上に生涯を通して使える資質・能力を育むことを重視するのは、言うまでもなく、いよいよ小学校から本実施が始まった新しい学習指導要領が目指すところである。たとえば、高等学校学習指導要領国語編が掲げる次の二つの指導事項においては、〈定番外〉の王朝物語が教材として十分に使えるのではないだろうか。

・必修科目「言語文化」／「読むこと」言語活動例のウ「異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。」

・選択科目「古典探究」／「読むこと」考えの形成、共有の才「古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。」

これらの学習活動が、世の事象に対峙するための普遍的な力の獲得に結びつくことは言うまでもない。近年の大学生を見ると、個別の知識や事象同士を関連づけて「ものがたり」として説明することや、既習事項を活かして新たな問いを見出すことが不得手だと感じる。その弱点を克服する資質・能力の育成に、〈定番外〉教材は寄与できるだろう。

問 古文教材のいわゆる定番教材と定番外教材との関係を、王朝物語を中心に論じた文章の結部である。あなたは古典教育における定番教材と定番外教材との関係をどのように考えているか、論述してください。なお、ご自身の関心に引き付けていただき、この文章とは異なる問題意識で論じていただいても結構です。

(国語科教育学・国語科内容学)

資料解読

[illegible]

03

教員名 ()

氏 名

科目名 小論文（国語科教育学・国語科内容学）

問題番号

裏面に続く

←

教員名 ()

氏 名

科目名 小論文（国語科教育学・国語科内容学）

大学記入欄

問題番号

裏面に続く

← 裏面を使用する場合ここから記入すること

←

↑ じじ#ド

↑